

第78回関西広域連合委員会

日時：平成29年3月5日（日）

午前11時15分～午後0時03分

場所：大阪府立国際会議場 3F イベントホールD

開会 午前11時15分

○広域連合長（井戸敏三） 第78回関西広域連合委員会を開催させていただきます。

本日は、午後から広域連合議会3月定例会があり、ご質疑もありますことから、よろしくお願ひ申し上げます。

最初に協議事項の2件をお諮りした後、北陸新幹線ルートのご決定に係る申し入れに関連して、基本計画路線について整備新幹線へ格上げする要請をお諮りしたいと思いますのでよろしくお願ひします。

まず、地方創生推進交付金の平成29年度申請について、本部事務局から説明させていただきます。

○事務局 資料1「地方創生推進交付金平成29年度申請について」をご説明させていただきます。

来年度、平成29年度申請予定の事業として2本を考えています。1本につきましては「地域の魅力を活かす関西周遊環境整備事業」、もう1本につきましては「水素による関西しごと創生・低炭素まちづくりスタートアップ事業」で、1の事業につきましては、事業概要に記載のとおり、①地域の魅力を伝える人材活用事業、②地域の魅力再発見事業、③地域の魅力へのアクセス向上事業の3本の大きな柱立ての事業構成となっております。

2の水素につきましては、大規模な水素供給システム整備のための関西水素サプライチェーン構想を策定するという大きな柱の事業となっております。

申請期限につきましては、3月中旬と国から聞いておりますが、詳しい日程はまだ国から示されておられません。3月中に申請をする予定で申請書の準備等、作業を進

めさせていただきたいと考えております。

次ページ以降の参考資料につきましては、もう少し詳しく説明しているペーパーですが、時間の関係上、割愛させていただいております。

説明については、以上でございます。よろしくお願いいたします。

○広域連合長（井戸敏三） 特に1の事業というのは、平成28年度も申請したんじゃないかなったでしょうか。類似の事業ですか、内容が変わっているのでしょうか。

○事務局 1の事業については、平成28年度に追加申請をさせていただきました。結果は残念ながら不採択になったのですが、不採択理由等にされました先駆性、自主性、官民連携、政策間連携という要素につきまして、再度事業内容を見直し、申請すると聞いております。

○広域連合長（井戸敏三） どこを見直したのですか、具体的に。例えば通訳ガイド。

○事務局 事業の内容としましては、通訳ガイドの研修等の部分と地域の魅力へのアクセス向上という形で、2次交通の部分を重視したいという形にしております。それと国から一番指摘されましたのが、民間の事業者等との連携という形で、関西観光本部との連携を全面に押し出して申請させていただきたいと考えております。

○広域連合長（井戸敏三） 他にございますか。

採択基準がよく分からないから、どうしてこれがよくて、これが悪いんだろうというのが全然一本化されないんですよね。だからやってみないとどうも分からないところがあるので、広域連合としても出させていただいて、フォローアップを皆さんと一緒にやるということにさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは2番目の議題、平成29年度の広域連合の組織体制につきまして、ご説明いたします。

○事務局 資料2「平成29年度関西広域連合組織体制」の1ページをご覧ください。

本部事務局でございます。1点目は資格試験・免許事務の拡充です。これまで毒物劇物取扱者試験及び登録販売者試験の2種類の試験について、広域連合に新たに持ち寄り処理する方向で検討を進めてまいりました。このたび、平成31年度からの実施を目指し、来年度から本部事務局に参事を1名配置して、本格的に準備を進めたいと考えております。このことから当初予算におきましても当該職員の人件費及び事務費を計上しているところです。

2点目は、地方分権対策の充実でございます。来年度、地方分権対策課におきましては、従来から取り組んでおります国出先機関対策のほか、新たな課題といたしまして琵琶湖・淀川流域対策に関するデータの収集調査事業、それから広域行政のあり方検討などに新たに取り組むことといたしております。

また、計画課で現在取り組んでおります政府機関等移転の支援につきましては、分権型社会の構築という観点から地方分権対策課に移管して対応したいと考えております。

次に、裏面2ページをご覧ください。分野事務局でございます。

まず、広域産業振興局につきまして、府県市が実施いたします新商品調達認定制度による認定商品を広域連合の域内の広報することで、関西各企業の販路拡大を支援してきたところでございますが、商品の特性を熟知しております各構成府県市が、それぞれ周知を図るほうがより効果的とのことから各構成府県市で広報を行うことといたしまして、現在の新商品販路開拓支援課を廃止するものでございます。

それからエネルギー検討会でございます。新たに水素エネルギーの利活用に向けた広域的な取組の検討を行うことに伴いまして、水素、燃料電池分野など環境エネルギー関連産業の振興に取り組んでおります広域産業局との密接な連携を行うため、エネルギー検討会の事務局を滋賀県から大阪府に移し、そのリーダーである企画参事を滋賀県から大阪府に移すものでございます。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） 大きな組織変更ではありませんが、内部の所掌事務の変更をさせていただいたということでございます。

これで臨ませていただきますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

3番目に、今お配りいたしました「新幹線鉄道の整備にかかる要望書」をご了解いただいたら国に対して要望したいと思いますので、仁坂副連合長からご説明願います。

○広域副連合長（仁坂吉伸） 新幹線につきましては、関西広域連合で北陸新幹線の関西側についての早期着工を今、強力にお願いをしているところであります。その早期着工が図られた後、基本計画路線が関西にたくさんまだ整備計画にならないで残っているのを、これをやはり早く整備計画化してほしいと。あわせて、関西国際空港への高速アクセスがそれに乗っかれば一石二鳥なので、ぜひよろしくお願ひしますということをお願いに行ったらどうかということです。

国も、今回新幹線に関する調査費については増額査定をして臨もうということに見られるように、このような動きに対する一定の理解があると思いますので、今がチャンスということでやっていきたいと思っております。

後ろにつけましたのは、和歌山県で作成しました新幹線にかかる資料です。ヨーロッパに比べても今までのところは何とか競争力上困るというほどではなかったかもしれないんだけど、5ページにあるように1人当たりだと、どうかなというところもあるし、6ページにありますように、新幹線が通っていない大きな街というのが日本中にたくさんありますね。さらに、これは我々にとって一番おかしいと思いますのは、7ページにあるように同じ基本計画路線であったところが、東京の周辺は実際できてしまったのが多い。こちらはまだ整備計画にもなっていないのがたくさんあるというのはやはり日本の国土の双極的利用から考えるとおかしいんじゃないですかということで、我々が抱えている三つの新幹線についてもぜひ検討の俎上にのせて早くやってほしいという提案です。

○広域連合長（井戸敏三） 特に何かご質疑なり、ご意見がありましたらお願いします。山田委員の確認をいただいたらありがたいのですが。

○委員（山田啓二） 「関西国際空港への高速アクセス」が入っていますので。

○委員（飯泉嘉門） 大賛成です。大きくはやはりこの基本計画路線、昭和48年につくられて、棚晒しなんですよね。今回は、千載一遇のチャンスということで増額査定で各基本路線について調査をやろうという形になった。ここに手を挙げない手はないだろうというのが第1点です。

それから今、インバウンド、2,400万人を超えて、いよいよ2020年に4,000万人、2030年に6,000万人となって、どうやってこれを受け入れるんだと、目標を掲げたわけですね。となってくれば、やはりこれから羽田に2本滑走路をつくるよりは、関西5空港7本の滑走路を有機的につなぐべきだと考えると、やはりこの関空アクセス線ですよね、これはもうぜひとも必要、これも今、挙げるしかないんじゃないのかと、絶好の機会と。当然ここが有機的に四国新幹線につながってきたりという形ができますので、ぜひこうした形で強く今、関西広域連合からどんどん提案をしていくべきだと思います。よろしく願いいたします。

○委員（平井伸治） 全面的に賛成であります。先ほど和歌山県の仁坂委員が高速鉄道資料をつくられましたけれども、1ページをご覧くださいますと、日本地図ですが、明らかに中日本から東日本は、もう完成したり、計画がありましてカラフルなんです。西日本が真っ黒になるんですね。これは多分そういう色合いになるという趣旨で、こう書かれたのかなと思いますが、やはりこれは日本の発展の意味からバランスが悪いわけであります。

しがたいまして、山陰新幹線、四国新幹線、中部・北陸新幹線、そして関空アクセス、こうしたところをしっかりと国に主張すべきです。平成29年度、国は特別な調査事業を計上したと言っています。今こそ関西で声を上げなければいけません。

○広域連合長（井戸敏三） それでは、このような要望を関西広域連合としてさせ

ていただくということで、ご了解をいただきたいと思います。

誰がどう働きかけるかは、仁坂副連合長と相談させていただきますので、我々にご一任いただきたいと思います。

協議事項は以上です。

続きまして、報告事項に移ります。

まず、最初に、大雪被害対策についての要望です。事務局説明してください。

○事務局 資料3「大雪被害対策にかかる要望について」をご覧ください。

本年の1月から2月にかけての大雪によりまして、関西広域連合域内でも農業生産施設等に大きな被害が発生いたしましたことから、2枚目のとおり、被害状況を広域防災局と農林水産部で取りまとめております。早急な各地域の復旧に向けまして、先月末、大雪被害対策につきまして、国への要望として5項目を取りまとめ、関係の総務省、農林水産省、国土交通省に提出いたしておりますので、ご報告いたします。

以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 京都はまだ調査中になってはいますが。

○委員（山田啓二） まだ時期的に雪が降る恐れもあるのではないかとということで、この2月24日の段階では調査中になっているのですが、かなりの被害が出ましたので、既に補正予算等も組んで、現在対応しているところです。

○委員（平井伸治） このたび大雪被害が関西各地を襲いました。兵庫県でも農業被害が広がりましたし、京都府でも林地の被害、あるいはビニールハウスごと、作物にも被害があった。また私ども鳥取県でも交通障害が多く発生しました。城崎駅も随分ストップされて、報道されたところでもあります。実は結構雪に弱いんですね。これ、やはり体制が北陸とか、東北ほどできていないということがございます。一つには、高速道路も2車線だけでつなげてきて4車線できていないところは雪捨て場すらない。こういうような道路があちこちにまだある。また、実際に被害があった場合の対策としても、国の支援も受けなければならないことも多々ございます。私どもとしても、

ぜひこうした大雪の要望をしていただければありがたいと思います。

また、関連しまして、鳥取県中部地震について、井戸連合長からも大変なご配慮をいただき、費用負担の点も熊本地震に準じた形で処理をしていただくなど、大変なご支援とご配慮をいただきましたことを感謝を申し上げたいと思います。

○広域連合長（井戸敏三） 兵庫県内も日本海沿岸地域は雪に慣れているので結構強いんですよね。ところが朝来市、丹波市、篠山市とか、いつも余り雪が降らないところが大被害を起こしています。例えば、ビニールハウスなんかですね、雪がどんどん積もりそうになったら、石油ストーブを中に入れて温めておけば、雪は滑り落ちてビニールハウス自体は潰れないんですよね。それがそういうノウハウを持っていないから、そのままにしていると潰れちゃう。そういうことなので、支援は支援としてやるんだけど、そういう対策も普及を図らなきゃいけないんじゃないかということで、今後普及を図ることにしたいと思っております。

○委員（山田啓二） 京都も同じでございまして、どちらかという、一番北の京丹後市とか、宮津市、舞鶴市といった豪雪地帯の被害ではなくて、福知山市とか南丹市のあたりで被害が出ました。まさにおっしゃるとおりで、そうしたボイラーがあったり、ビニールハウスを強化しているところではないところで、今回雪が降りましたので、京都としてはビニールハウスの倒壊が一番大きな被害となったということです。今後は、ビニールハウスの再建と同時に、いかにして積雪に備えた対策を講じるかという点も含めても一緒にやっていかなければいけないと思っています。

○広域連合長（井戸敏三） ただ、立ち往生するのは鳥取県内なんですよ。

○委員（平井伸治） これは、結局、国交省との関係プレーもあるんですけども、どうしても通行止めをしないといけない場合があるんですね。実は立ち往生の原因になっているのは、申し訳ないけど、ほとんどが近畿の車が原因なんです。きちんとチェーンぐらい巻いてきてほしいということでありまして、その辺のいろいろと問題がありますので、ぜひ関西一円での対策を求めたいと思いますし、正直申し上げて国交

省の装備も北陸地域とかと違って、やはり近畿以西は装備も弱いところもございます。いろいろな対策を政府でも講じていただくようお願いしていただければと思います。

○**広域連合長（井戸敏三）** ありがとうございます。

3月末にぼた雪が降ることも考えられますから、注意を怠らないようにしてまいりたいと思います。

それでは、続きまして、シンポジウムの開催についてのお知らせです。事務局お願いします。

○**事務局** 資料4「『創造的地域づくりと地方創生』シンポジウム」の報告をさせていただきます。

前日も事前告知をさせていただきましたが、3月28日、鳥取県鳥取市のホテルニューオータニ鳥取におきましてシンポジウムを開催いたします。同志社大学経済学部教授の佐々木先生による基調講演を初め、記載の方々によるパネルディスカッションを行う予定としております。地域創生の先駆的な取組や地域づくりのノウハウ等について考える内容となっておりますので、多数の皆様にご出席していただきますようお願いいたします。当日は、鳥取県の平井知事にもご挨拶をいただく予定となっております。

以上でございます。

○**広域連合長（井戸敏三）** 参加者が少なくて困るということはずないでしょうから、どうぞよろしく、平井委員のほうでお願いいたします。

○**委員（平井伸治）** ぜひ皆様の積極的なご参画をお願い申し上げたいと思います。やはり地方創生、決して旗をおろしてはいけません。むしろ推進すべきタイミングに入っていると思いますので、よろしくご協力いただければと思います。

○**広域連合長（井戸敏三）** それでは、関西健康・医療創生会議シンポジウムの開催についてです。事務局から説明させます。

○**事務局** 資料5「関西健康・医療創生会議シンポジウムの開催」をご覧ください。関西健康・医療創生会議では、3月28日に神戸市内においてシンポジウムを開催いた

します。関西健康・医療分野におきましては、世界を先導する産業を興すためには、医療・健康分野のみならず、情報科学であるとか、人工知能などの両方に精通した分野融合型の人材を育成することが必要です。この分野では、我が国は非常に人材が枯渇しております。そのため、一大学だけでは担えないというのがアカデミアや産業界の共通理解になりつつあります。そこで、今回はこうした新たな人材を関西全体でどういう形で育成していくべきかということを共通テーマとして開催いたしますので、年度末でございますが、皆様、ぜひともご参画いただければと存じます。

説明は以上です。

○広域連合長（井戸敏三） 特別講演に、金出武雄先生にお願いしてございまして、金出先生は、去年の京都賞の受賞者でいらっしゃいますので、大変最先端のご講演をいただけるのではないかと考えております。

○広域連合長（井戸敏三） 続きまして、資料6「第55回関西財界セミナー」のご報告をさせていただきたいと思っております。

概要の説明も省略いたしますが、「一極集中是正と繁栄の多極化を先導する関西」という第4分科会のテーマにおきまして、私が第2セッションの基調講演を約17分を行い、あと議論を深めたということでございます。関経連の地方分権を携わっていただいていた井上さんから、最近では地方分権の熱意が落ちているのではないかと、もっと地方分権に対する対応をしっかりと行っていないと進まないぞと、随分厳しいハッパをかけられました。現状そのとおりでもありますので、そのような意味でさらに対応を進める決意を述べさせていただきました。

1 ページの真ん中、太平洋人材交流センター、井上顧問のところのご意見であります。地方創生についても大変まやかしかだというような厳しい意見もいただいたものでございます。

ともあれ、関西は地方分権のいわば旗印をずっと掲げて運動を続けてきたという歴史と、実績も持っていますので、それを我々も引き継いでしっかりと活動展開してい

きたいと、このように願っております。そのときに発表しました資料もつけておりますので、その点ご承知おきいただきたいと思います。

続きまして、2025年国際博覧会検討会につきまして、植田副委員からお願いします。

○副委員（植田浩） 資料7でございます。「2025年国際博覧会検討会（第2回）」が去る2月15日に東京で開かれました。井戸連合長にも出席いただいたところでございます。

今回の検討会では、経産省から2025年版国際博覧会検討会報告書骨子（案）が説明されて、新たなテーマとして、この①の＊の四つのテーマが提示されました。

討議の中の主な委員の意見といたしまして、東京オリンピックやパラリンピック、ワールドマスターズゲームズのレガシーとして万博を位置づけることができれば、世界に対するアピール力が増すことになるなどの意見が出されたところです。

また、その他の議題として、②③④ですが、一つは、i n o c h i 学生プロジェクト代表説明とございます。i n o c h i 学生プロジェクトというのは、若者の力でヘルスケアの問題を解決するという目的で、京都大学、大阪大学の医学部の学生を中心に活動されているプロジェクトですけれども、ここから出された若者からの万博開催に向けたアイデアをまとめた2025大阪万博誘致若者100の提言書の説明がございました。

それから、大阪市の吉村市長から夢洲のまちづくり構想について、それから4番目、経産省から会場計画などの検証がそれぞれ説明されたところでございます。

次回第3回の検討会は大阪で開催予定でございますが、その第3回の検討結果を踏まえまして、国として立候補していくためのテーマ、あるいは会場計画、事業展開案などを報告書として取りまとめる予定だと伺っております。

引き続き、大阪関西での万博誘致に向けて、ぜひご協力方よろしくお願ひしたいというふうに思います。

以上でございます。

○**広域連合長（井戸敏三）** 私も発言しまして、特に健康のテーマがアフリカ諸国などを考えたときに非常に重要じゃないかと。例えば感染症対策の問題がありますし、それから栄養不足の問題がありますし、そうすると食料供給をどうするかということにつながっていきますし、それから生活環境をどうしていくんだというようなことにも関わってきますから、広がりが非常にあるんですね。健康というのは、何も健康寿命を延ばすとか、それだけじゃないんですね。ですから、健康ということについて、もっとメインに据えて議論をしていく必要があるのではないかと具体的に提案をさせていただきました。

パリはどういうテーマでしたか。

○**副委員（植田浩）** 「共有すべき知見 守るべき地球」、副題で「パリ協定を実現させた総動員の延長上に、我々の発展のモデルを健康・教育・文化・環境といった分野で改善していく」と。

○**広域連合長（井戸敏三）** それでは、今のご報告に対してのご質疑等ありますか。

それでは、しっかり頑張りましょうということで、次に移らせていただきます。

流域管理のシンポジウムの開催結果です。事務局お願いします。

○**事務局** 資料8をお願いいたします。

「流域管理シンポジウムー地域の個性を活かす流域ガバナンスー」を2月27日に開催しましたので、概要についてご報告いたします。

基調講演には、日本水フォーラム代表理事で、元国土交通省河川局長の竹村公太郎氏をお招きし、「日本文明と関西とエネルギー」と題して、エネルギーの視点から古代日本平城京を初めとする関西の歴史、水力発電や既存ダムの嵩上げによる効率的なエネルギーの生産、ポスト近代は「画一性」から「多様性」、「集中」から「分散型」、「スピード」から「スロー」へと話題提供いただきました。

次に、本部事務局から研究会報告書の概要をご紹介します、その後、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会副座長の中村正久先生を進行役、竹村氏をアドバイザーに流域政策

に精通し、関西を中心に活躍中の若手研究者によるパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、リスクファイナンス、水源保全、大阪湾の海ごみの発生源対策など研究会報告書で提案された流域の諸課題に対し、それぞれのご専門の立場からどのような客観的根拠が用意できるのか、また、どのように具体的な政策につなげていけるのかについて議論されました。関西の誇るスーパーコンピューター「京」などの最新の情報技術や国や構成団体の有するデータを活用することで、地域での政策決定に資する客観的な根拠を関西独自に用意できる可能性が示されました。また、研究成果を政策化していくためには、行政担当者と研究者が十分にコミュニケーションをとり、検討のプロセスをしっかりと共有していくことが重要であることが議論されました。さらには、行政担当者、研究者だけではなく、民間の実務者も交えた検討体制が必要であり、関西広域連合に期待する役割として、関西の適材適所を集めて場を用意することであるとのご指摘がありました。

最後に、竹村公太郎氏から「関西広域連合がものすごい可能性を持っていることを感じた。皆さんの目線が広がっている。このように研究者が集まり、関西という広い視野で政策を議論している場所は日本中他にはない。」といったコメントを頂戴しました。

本部事務局といたしましては、今回のシンポジウムでのご議論も踏まえ、来年度から検討に着手する具体的な政策課題、検討体制、スケジュールについて整理を進めまして来年度の早い段階で、委員の皆様のご議論をいただきたいと考えております。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） 特に何かご質疑ございますか。

竹村公太郎さんが言われているカーボン・ディスクロージャー・プロジェクトというのはどういう概念なんですか。

○事務局 企業がその企業活動に伴って、どのくらい二酸化炭素を排出しているかという概念で、たくさん排出している企業は、環境的に見て余りよくないということ

で機関投資家はそういう企業には、余り投資をしたがらない傾向があるというお話でございました。

○**広域連合長（井戸敏三）** 　少しその人たちは余りお金持っていないんじゃないの。

　続きまして、資料9「『インターカレッジ・コンペティション2016』の開催結果について」をご報告します。

○**広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部**　この事業につきましては、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を契機に国内外に関西の魅力を発信するため、次代を担う大学生からワールドマスターズゲームズを活用した地域活性化策についてのアイデアを募りまして、プレゼンテーション形式でその内容を競うものでございます。

　第3回目となります今回は、関西広域連合とスポーツコミッション関西が主催となりまして、去る1月27日、関西圏の大学22チームの参加によりまして、ここ大阪国際会議場において、予選・決勝大会を開催いたしました。最優秀賞を受賞いたしました神戸大学長ヶ原ゼミ三浦チームのアイデアは、過去のワールドマスターズゲームズ大会の広報活動、これを分析しましたところ、ボランティアとしてのライターがないでありますとか、大学の現役生や卒業生のボランティアとの関わりが少ない、こういった課題があるということが分かりまして、神戸大学が有するネットワークを活用した学生ルポバンクの設立でありますとか、大会前から学生ルポライターチームが活動して、大会に関わる人々の声を伝えていくといった発想力と事業性の高い内容でございました。この最優秀受賞チームは、研修として4月のオークランド大会にも視察参加をいただきます。

　今回、大学生の豊かな感性を活かして持ち寄られたアイデア、今後、関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会などにおきまして、具体的に実施に向けて検討していくこととしております。

　なお、決勝に進出しました6チームのプレゼンテーションにつきましては、組織委

員会のホームページにも動画を掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

以上でございます。

○**広域連合長（井戸敏三）** 特にご質疑等ございますか。

なければ、次に移らせていただいて、平成28年度の関西エコオフィス大賞の決定についてです。

西嶋副委員、お願いします。

○**副委員（西嶋栄治）** 資料10「平成28年度関西エコオフィス大賞の決定について」ご報告申し上げます。

適正冷暖房温度の設定や夏冬エコスタイルなど身近なところからの省エネルギー等の取組を実施されている事業所に、「関西エコオフィス宣言事業所」として、現在、1,727の事業所が宣言していただいております。このたび宣言事業所より、優れた取組を募集いたしましたところ、19件の応募がございまして、アドバイザーからのご意見もいただきまして、構成府県市の選定会議におきまして、関西エコオフィス大賞及び関西エコオフィス奨励賞を決定いたしました。

受賞に当たりましては、総合的に特に優れた事業所を対象として選定いたしますとともに、他への波及可能性や創意工夫の度合いなど個々の評価項目において、優れた取組を行っていただいている事業所やユニークな取組を行っていただいている事業所を奨励賞として選定させていただいた次第でございます。

平成28年度の関西エコオフィス大賞は、大塚製薬株式会社神戸支店に決定させていただきました。テナントビル内に入居するオフィスにおきまして、社内外の関係者と協働して改修を実施することで、エネルギー使用量の削減を実現し、改修後の運用方法の工夫など総合的に取り組んでおられることが高く評価されました。

2ページでございます。関西エコオフィス奨励賞でございますが、エコ・トップ株式会社紀南エコセンター、株式会社クボタ本社、株式会社GE、株式会社シガウッド、

不二電設工業株式会社の5事業所に決定させていただきました。表彰式は、今月28日に滋賀県庁で行いまして、三日月委員から賞状を授与させていただきます。今後、これらの事業所の取組を先進事例として、ホームページ等で広く公表することにより、地球環境に優しいオフィス活動を関西圏でさらに広めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○広域連合長（井戸敏三） 特にお尋ね等がなければ、進ませていただいて資料11「『KANSAI国際観光YEAR2017』PRイベントの開催について」を山田委員からお願いします。

○委員（山田啓二） 「KANSAI国際観光YEAR」事業は、今年は「食を楽しむ観光」をテーマに行います。ゴールデンウィーク中に大阪で食博覧会がありますし、11月には、「御食国関西・和食の祭典in淡路島（仮称）」がありますので、このあたりをメインの事業にして、1年間、食をテーマにPRをしていこうということで、その第1弾として3月8日・9日に、関空でPRイベントを行います。KANSAI国際観光YEAR実行委員会が主催し、食博覧会実行委員会等の団体の協力も得て、観光紹介コーナー、食体験コーナー、そしてマスコットのゲームコーナー、ウェルカムグリーティングといった内容で行わせていただきたいと思います。ご協力を求めることもあるかと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上です。

○広域連合長（井戸敏三） ご盛會を祈るとともに、盛會にしなくちゃいけませんから頑張りましょう。

以上で、報告案件も終わりましたが、特にございますか。

飯泉委員、どうぞ。

○委員（飯泉嘉門） その後ろにベートヴェン「第九」アジア初演100周年に向けてのホップステップとして、今年のプログラムを載せさせていただきます。皆様方に御礼を申し上げたいと思います。

この2月12日、いよいよ来年が100周年となるベートヴェン「第九」アジア初演、その第2弾を行わせていただきました。関西広域連合の皆様方にご依頼もさせていただきまして、約480名の皆さん方がお越しいただきました。プログラム見開きになっておりますので、4ページ目の見開きを見ていただきますと、各参加いただいたメンバーのお名前とコーラスグループの名前を載せておりますが、滋賀県から始まって、まず関西広域連合の皆様方、そしてそれ以外の皆様方、そして県内と分けさせていただいております。今回2,000名を超える合唱団となりました。そのうちの480名が関西広域連合からでありました。いよいよ来年の100周年に向けて、いよいよ最終段階になったということでもあります。ぜひ来年もご協力をいただきたいということと、今回、特に来年に向けて、新しい進化する第九を行っていこうということで、第九は普通アンコールはしないのですが、アンコールでもう1回第九の最初の部分を合唱とともに、バーチャルシンガーの初音ミクは今までずっと富田勲さんの世界、イーハトーヴでも二次元画面で出てきたんですが、初めて世界初の三次元立体でこれを映して、そして秋山先生の指揮のもとソロで最初歌って、合唱団も一緒に歌うと、初めての試みもさせていただいたところでもあります。ぜひ来年の100周年、よろしく願いを申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 彦根城410年祭も資料がついていますが。

○副委員（西嶋栄治） 今月の18日から12月まで長い期間ですけれども、国宝・彦根城築城410年祭を開催させていただきます。現在、大河ドラマで直虎が大いに盛り上がっております。浜松がメインであります。その直虎が命をかけて守り、彦根藩祖となったのが、直政でございます。ぜひ彦根のほうもよろしくお願い申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 以上でございますが、他にご意見等ございましたらお願いいたします。

それでは、第78回関西広域連合委員会、以上とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

○事務局　それでは、記者の方でご質問ありましたら、お受けしたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

どうぞ。

○日本経済新聞記者　日本経済新聞の種田です。今ご説明があった中で、財界セミナーでの説明資料として、連合長から「関西の未来に向けて」という資料が出て、15ページに関西広域連合の今後の課題として機能強化を目指すのか、その場合の検討項目として連合長・連合議員の直接選挙、課税権の確保など、かなり大胆な項目が上がっていましたけれども、これは連合長個人のメモのような位置づけなのか、あるいは近い将来研究会なり、事務局内で検討する可能性があるものなのか、その辺を少し教えていただけないでしょうか。

○広域連合長（井戸敏三）　広域連合の機能強化を目指すのかというところが一番のポイントで、機能強化を目指すんだとすると、持ち寄り事務で広域連合の運営をしていこうというのには限界があるはずです。ですから、広域連合を積極的に分権なら分権の受け皿として活用していくという体系化を図らないといけない。体系化を図ったときには、ここにあるような少なくとも三つの検討は避けて通れない検討項目ですよという趣旨で申し上げました。今の広域連合がそのままこういう形で発展できる対応とか仕組みにはなっておりません。一番最初のご質問にお答えすれば、これは広域連合長井戸としての個人的見解を述べさせていただいたということでございます。

○日本経済新聞記者　ありがとうございました。

○事務局　他にございませんか。

それでは、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

閉会　午後0時03分